

# CT/NG

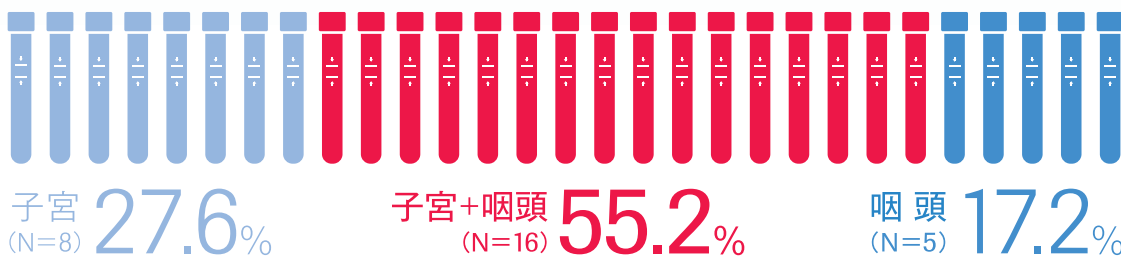
## 性感染症の盲点は、のどでした。

### 性器感染陽性患者さんの、 咽頭感染を見逃していませんか？

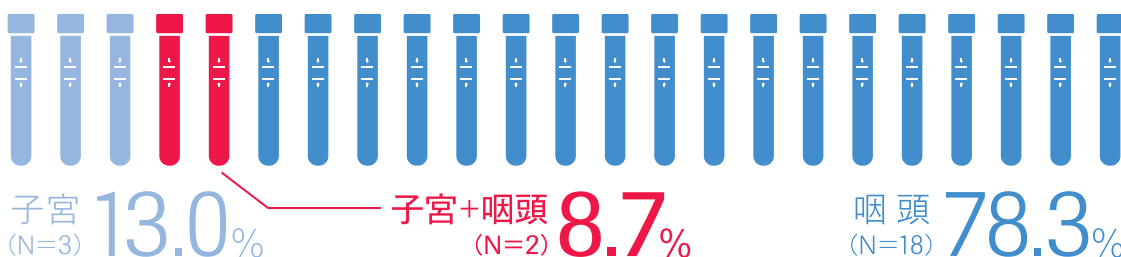
ハイリスク群患者さんのうち、陽性になった感染部位について調べたところ、性器だけではなく咽頭にも感染している傾向が強く見られました。性器感染が確認された場合は咽頭への感染も疑い、検査・治療が必要であると考えられます。



#### クラミジアトラコマチス (CT) (N=29)

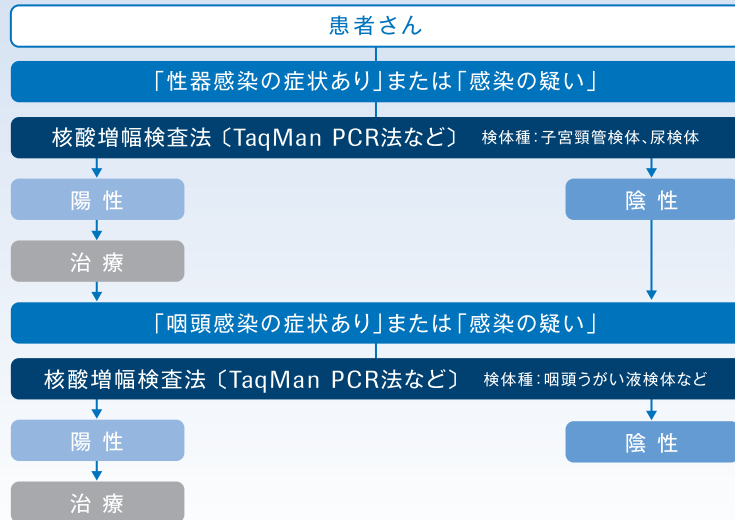


#### 淋菌 (NG) (N=23)



「性感染症の効果的な蔓延に関する研究」(2004年)より

## 性器治療後には、咽頭感染の確認をお勧めします。



| 性器感染主訴 |                      |
|--------|----------------------|
| 女性     | 帯下の増量、不正出血、下腹痛、性交痛など |
| 男性     | 尿道からの分泌物(膿)、排尿痛、発熱など |

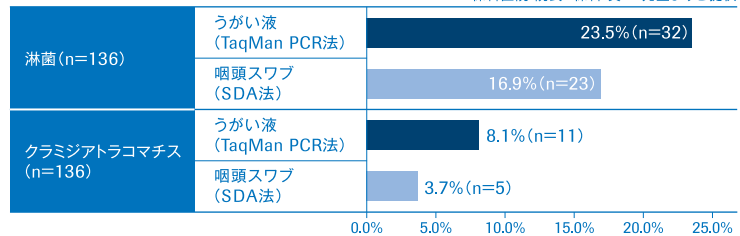
| 咽頭感染主訴 |               |
|--------|---------------|
| クラミジア  | 咽頭炎、発熱、耳閉感    |
| 淋菌     | 咽頭炎、咽頭の発赤、口内炎 |

咽頭に感染していても症状が出ないことがあります。上記の症状が無くても、感染が疑われる場合は検査をお勧めします。

## 咽頭うがい液検体は、咽頭スワブ検体に比べて、感度が高い特長があります。

保科医院 院長 保科 眞二 先生よりご提供

同一の患者さんから採取した咽頭スワブ検体(SDA法)と、咽頭うがい液検体(TaqMan PCR法)で陽性率を比較したところ、咽頭うがい液検体の方が陽性率が高いという結果が得られています。また、「2011年 性感染症ガイドライン」でも咽頭うがい液は、推奨ランクAであり、患者さんに負担が少ない点で推奨されています。



患者さんへの負担が少ない、「うがい液」での検査が可能になりました。

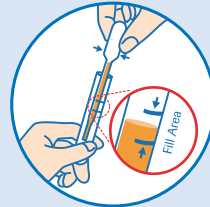
### 「うがい液検体」の採り方



#### 1.うがいの仕方

生理食塩水(日局方など)をコップに15~20mL入れてください。生理食塩水15~20mLを口に含み、顔を上に向けて10~20秒間、勢いよく「ガラガラ」とうがいを行ないます。

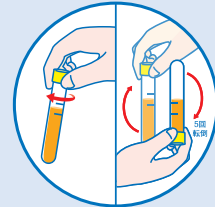
【注意】口に含んで吐き出した液とうがい容器に残した液を合わせて「うがい液」とします。



#### 2.検体輸送液への懸濁

「うがい液」全量とうがい用容器に回収し、スポイトで専用メディアに必要量添加します。

【注意】「うがい液」は専用メディアに記載されている2つのラインの間に収まるように加えてください。



#### 3.検体容器の保管

専用メディアの蓋をしっかりと閉めてください。専用メディアを5回転倒混和させてください。

### 【検査要項】

| 検査コード | 検査項目                  | 材料   | 検体量 | 容器        | 保存条件  | 所要日数 | 検査方法              | 基準値 | 診療報酬区分番号 | 保険点数 | 保険収載名称            |
|-------|-----------------------|------|-----|-----------|-------|------|-------------------|-----|----------|------|-------------------|
| 7706  | クラミジア・トラコマチス PCR うがい液 | うがい液 | 5mL | QUG (=QU) | 2~30℃ | 2~3  | PCR法 (リアルタイムPCR法) | 陰性  | D023-2   | 210  | クラミジア・トラコマチス 核酸検出 |

※ア クラミジア・トラコマチス核酸検出とクラミジア・トラコマチス抗原定性を併用した場合は、主なもののみ算定する。  
イ クラミジア・トラコマチス核酸検出は、PCR法、LCR法、核酸ハイブリダイゼーション法、ハイブリッドキャプチャー法、SDA法又はTMA法による同時増幅法並びにHPA法及びDKA法による同時検出法により、泌尿器、生殖器又は咽頭からの検体によるものである。  
※九州・沖縄地区は所要日数3~4日となります。  
※うがい液を採取後に別容器で保存される場合は、2~8℃で検体を保存し、10日以内に当該専用容器(QU)に移してください。

| 検査コード | 検査項目        | 材料   | 検体量 | 容器        | 保存条件  | 所要日数 | 検査方法              | 基準値 | 診療報酬区分番号 | 保険点数 | 保険収載名称 |
|-------|-------------|------|-----|-----------|-------|------|-------------------|-----|----------|------|--------|
| 7708  | 淋菌 PCR うがい液 | うがい液 | 5mL | QUG (=QU) | 2~30℃ | 2~3  | PCR法 (リアルタイムPCR法) | 陰性  | D023-2   | 210  | 淋菌核酸検出 |

※ア 淋菌核酸検出、淋菌抗原定性又は細菌培養同定検査を併せて実施した場合は、主なもののみ算定する。  
イ 淋菌核酸検出は、DNAプローブ法、LCR法による増幅とEIA法による検出を組み合わせた方法、PCR法による増幅と核酸ハイブリダイゼーション法による検出を組み合わせた方法、SDA法又はTMA法による同時増幅法並びにHPA法及びDKA法による同時検出法による。淋菌核酸検出は、泌尿器、生殖器又は咽頭からの検体によるものである。ただし、男子尿を含み、女子尿を含まない。なお、SDA法、PCR法による増幅と核酸ハイブリダイゼーション法による検出を組み合わせた方法又はTMA法による同時増幅法並びにHPA法及びDKA法による同時検出法においては咽頭からの検体も算定できる。  
※九州・沖縄地区は所要日数3~4日となります。  
※うがい液を採取後に別容器で保存される場合は、2~8℃で検体を保存し、10日以内に当該専用容器(QU)に移してください。